

都市再生整備計画 事後評価シート

三角地区

平成23年3月

熊本県 宇城市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	熊本県	市町村名	宇城市	地区名	三角地区	面積	806ha						
交付期間	平成18年度～平成22年度	事後評価実施時期	平成22年度	交付対象事業費	590百万円	国費率	0.413						
1)事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業 【道路】(市道高々崎線、市道東港塩屋線、市道首入線、市道越地古水線、市道小学校登校道路第一線)、【高質空間形成施設】(三角西港インターロッキング舗装)、【地域生活基盤整備】((仮称)戸馳総合多目的グラウンド、情報案内板)											
		提案事業 【地域創造支援事業】(市道首入線(路線橋))、【まちづくり活動推進事業】(ワークショップ等)											
	当初計画から削除した事業	基幹事業 【高次都市施設】((仮称)三角コミュニティセンター)	削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響								
		提案事業 なし	—		—								
	新たに追加した事業	基幹事業 【地域生活基盤施設】(宇城市三角センター)	施設の施設計画から既存施設の改修計画に変更したため追加。		「地域交流センターの利用者数」の指標に関連するが、影響は少ないため、数値目標は据え置く。								
	提案事業	【地域創造支援事業】三角地区生涯学習拠点施設、【事業活用調査】(事業効果分析)	文化教育関連施設を整備し、暮らしやすいまちづくりを形成するために追加。		新たに「生涯学習拠点施設の利用者数」の指標を追加した。								
	交付期間の変更	当初変更	平成18年度～平成22年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		—							
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度		モニタリング	評価値	達成度				
	指標1	観光入込客数	人/年	752,022	H16	800,000	H22	—	632,000	×	あり なし	三角～島原フェリーが廃止された事や、世界的な不況・景気低迷等の影響により、観光入込客数の数値目標を達成することはできなかったが、三角西港周辺一体の整備により、景観の向上、観光客の西港周辺施設へのアクセス性向上、地元住民の利便性・安全性の向上が図られ、一定の事業効果が上がっている。	H24.4
	指標2	地域交流センターの利用者数	人/年	23,044	H16	25,000	H22	—	12,807	△	あり なし	市町村合併により地域の活動やイベントが市で統合された事などの影響にて、地域交流センターの利用者数の数値目標を達成することはできなかったが、三角センターの改修により施設の魅力、利便性等が大幅に改善したこと、近年減少傾向にあった利用者数が下げ止まり傾向を示しており、一定の事業効果が上がっている。	H24.4
	指標3	まちづくり活動参加者数	人/年	31	H17	60	H22	—	70	○	あり なし	まちづくり活動推進事業の一環として、地域住民によるワークショップの開催等がきっかけで、まちの現状、未来像について共通理解ができ、地域が主体となったまちづくり活動として幻灯彩が開催されたことが、まちづくり活動参加者数の増加に寄与した。	H24.4
	指標4	生涯学習拠点施設の利用者数	人/年	19,156	H17	22,000	H22	—	19,082	△	あり なし	生涯学習拠点施設の利用者数がH20にH17比80%まで減少したが、生涯学習施設の竣工により、直近1年間ではH17と同レベルまで回復しており、目標値には達していないが、一定の効果は上がっている。	H24.4
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度		モニタリング	評価値	達成度※1				
	その他の数値指標1	西港公園利用者数	人/年	306,880	H17			—	310,343			三角西港全体の整備が完了し、景観や、観光客の西港周辺施設へのアクセス、地元住民の利便性・安全性が向上したことが、海洋型観光レクリエーションの拠点としての魅力を高め、西港公園利用者数の増加に寄与した。	H24.4
	その他の数値指標2	防犯パトロール活動状況	回/年	0	H17			—	59			地域防災施設でもある三角センターの整備や、避難路としても重要な役割をもつ路線橋の整備などにより、誰もが安心して暮らしやすいまちづくりの形成につながり、防犯パトロールの活動の増加に寄与した。	H24.4
	その他の数値指標3	通学路のうち歩行者スペースがある道路	%	44.9	H17			—	54.3			事業の対象である道路整備が完了したことが、通学路のうち歩行者スペースがある道路の安全率の向上に寄与した。	—
	その他の数値指標4	三角地区でのイベント数	回/年	11	H17			—	16			ワークショップを開催し、三角地区の現状及び未来像について地域住民と共通理解が生まれたことや、西港公園周辺及び道路整備などを実施したことが、観光振興や町再生にかかるソフト面の充実につながり、三角地区のイベントの回数の増加や、継続に寄与した。	H24.4
	その他の数値指標5	三角図書館の貸し出し冊数	冊/年	44,448	H17			—	57,627			施設を新築したことをきっかけに、新たに布絵本作成ボランティアが組織化されたこと、おはなし会などのイベントが増えたことなどが、三角図書館の貸し出し冊数の増加に寄与した。	H24.4
4)定性的な効果発現状況	三角センターの耐震改修やバリアフリー化により、三角センターが第2避難所から第1避難所に変更になり、誰でも安心して避難することができるようになった。三角センターにエレベーターが設置されたことにより、利用者から利便性が向上したという意見が多く聞かれる。三角図書館について、蔵書数が増えたことや、来館者が本を読むスペースが広くなったこと、各種事業が開催されたことなどから、とても良くなったという意見が多く聞かれる。西港周辺のインターロッキングの整備により、段差等が解消され歩きやすくなったという地元住民からの意見が多く聞かれる。												
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	なし			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				なし				
	住民参加プロセス	住民ワークショップを開催し、住民意向の反映に努めた。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 三角地域活性化計画に沿った事業展開等を検討していく。				
	持続的なまちづくり体制の構築	三角地区を中心に活動するまちづくり団体等の活動を支援した。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 各種まちづくり団体の活動に、行政は引き続き支援していく。				

様式2-2 地区の概要

三角地区（熊本県宇城市）都市再生整備計画の成果概要

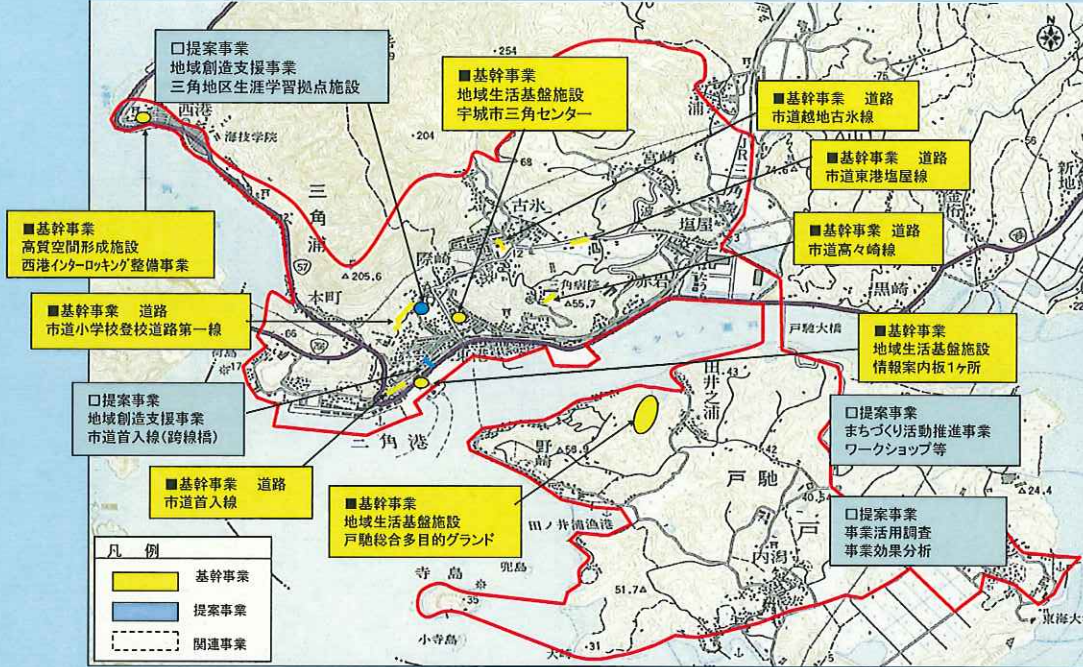
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値	
大目標：海洋型地域資源を活かした観光・交流の促進と誰もが安心して暮らせるゆとりあるまちづくり		観光入込客数	単位：人/年	752,022 H16	800,000 H22	632,000 H22	
目標1	港周辺と地域内の観光資源を連携した新たな観光ルートを開発し、海洋型観光レクリエーションの拠点としての魅力を高め、観光客等の増加を図る。	地域交流センターの利用者数	単位：人/年	23,044 H16	25,000 H22	12,807 H22	
目標2	防災性を確保し地域住民間の交流のみならず、地域貢献型医療・福祉関係施設等との交流をも図ることで、誰もが安心して暮らしやすいまちづくりの形成を図る。	まちづくり活動参加者数	単位：人/年	31 H17	60 H22	70 H22	
目標3	地域で動き出したまちづくり活動を支援し、観光振興やまち再生にかかるソフト面の充実を図る。	生涯学習拠点施設の利用者数	単位：人/年	19,156 H17	22,000 H22	19,082 H22	



三角地区生涯学習拠点施設



宇城市三角センター





市道越地古水線



戸馳総合多目的グラウンド

まちの課題の変化

- 戸馳総合多目的グラウンドは、基盤整備が整った状態であり、供用開始とはなっていない。
- 市道小学校登校道路第一線は、小学校迄の未改良区間が120mあり、アクセス性がよくない状況である。
- 宇城市三角センターの規模に応じた駐車機能の確保が課題である。
- 三角地区生涯学習拠点施設は、利用者の増加に伴う駐車機能の確保が課題である。
- 図書館に行きたくても行けない人たちのための移動図書館車を運行しているが、集落内の移動図書館車停留所が狭く不便なため、駐車するスペースを確保することが課題である。

今後のまちづくりの方策（改善策を含む）

- 西港地区の保存と利活用のため、今後は周辺市町村との広域連携の推進、各種ソフト事業及び広報を実施し、利用者の増加に努めるとともに、アクセス性の向上などを検討していく。
- 施設のハード面はほぼ達成されており、今後は更なる利用者の増加を図るため、高齢者の利用促進策、特色ある事業展開による地域の活性化、活性化施策を主になって進めていくまちづくり団体の育成等を検討していく。
- 戸馳総合多目的グラウンドは、基盤整備が整った状態であり、供用開始とはなっていないため、早期供用開始に向け整備を促進する。
- 利用者には整備した施設をより快適に利用できるよう、また、近隣住民にはより安心して活用できる施設として、施設の規模に対応した駐車機能の確保を行い、更なる利用者の増加を図る。
- 未整備区間の道路や、通学路における歩道・路側帯のない道路の安全対策を引き続き実施する。
- 移動図書館車を、よりたくさんの住民に利用してもらうため、新たな広場機能の確保を行う。